

OK式油水分離槽メンテナンスについて

油水分離槽は、メンテナンスフリーの製品ではありません。

メンテナンスを怠ると、詰まり、漏れの原因となります。各機能を十分に活かすためには保守・管理は欠かせず事の出来ない作業ですので、設置状況及び流入状況に合せた作業マニュアル等を作成してください。

メンテナンスの検討事項（例）

〔槽内への流入状況把握〕	〔メンテナンスの種類の検討〕
・ グリースの種類 ・ 異物の種類 ・ 流入・流出量	・ グリース ・ 流入時のゴミ等(枯葉・空き缶・etc) ・ その他
〔メンテナンスの周期の検討〕	〔グリースの回収方法の検討〕
・ 内部点検時期 ・ メンテナンス部材点検・交換時期 ・ 槽内清掃時期 ・ その他	・ 柄杓使用：槽内の浮上している油をすくう ・ 吸着マット：常時浮かべておいても良いが、汚れたら交換する ・ 外注依頼：メンテナンス専門業者に依頼する
〔メンテナンスの部材の検討〕	〔その他〕
・ メンテナンス部材の検討 ・ 槽内清掃内容の検討 ・ その他	・ メンテナンス予算 ・ 予想外事態対策(大量の流入時・台風)

各状況のメンテナンス事例

■グリース量 **中** ⇒ 飲食業〔屋内・ビル設置等〕

水の使用量も工場等より少なく、分離槽の規模が小さいわりに油量は多い、毎日の作業終了時に清掃を行う。

■グリース量 **小** ⇒ ガソリンスタンド・自動車修理工場・洗車場

給油時の漏れ・オイル交換時・洗車時の車周りの油が考えられる。油量・流水量共に比較的少ないようで、日常作業として柄杓で汲み出し作業もしくは吸着マットを使用している。

半年に1度程度の周期で槽内清掃を清掃専門業者に依頼する。

■グリース量 **大** ⇒ 工場〔業務用排水〕

工場用排水の場合、使用水量が比較的一定である為、自主管理し易いと言える。実地調査を行い、油の量により清掃時期を決定して業者委託を行う。少量の油の場合は吸着マットを使用する。

■槽内に雨水が混在⇒工場・廃棄物処理場〔敷地内雨水用〕

雨水と排水が混ざる場合、流入量・油の濃度が不均等になり管理が難しくなる、と言えるでしょう。普段降雨がない時は槽内の水位が下がる事もある。吸着マットの交換周期を短くする。雨が降った後、必ず点検をする。等で対応します。

■特例の事態 ⇒ 非常時用〔高速道路・油タンク〕

路上設置においてはグリースの流入はほとんど皆無ですが、少量の油に備え吸着マット等の使用が一般的である。但し、事故・災害時の対応(タンクローリー転倒・地震発生等)については有事後すぐ油の除去を行う。そのまま放置すると油水分離槽のキャパシティーを越えるので、現場にてマニュアル等の作成が必要と思われる。

現状のメンテナンス方法は一般的に吸着マットの使用及び清掃業者委託がほとんどですが、用途や使用状況により流出状況が異なるので、まず状況を把握し、点検・交換周期について各業者及び管理者で決定して下さい。尚、一度決めたメンテナンス方法も1年に一回は見直しをするようにしましょう。